

第二回マンション防災の意見交換会 実施報告

今年度も広野台地区自主防災会連絡協議会では、広野台地区の各自治会の会長やマンションの理事、そして防災に関心のある座間所在のマンションの方々に集まっていただき、前年度と同じ災害対策研究会所属でマンション防災士の釜石徹さんから講演と非常食の試食会を開催しました。

命題 「災害時に自宅で10日以上過ごす備え」



開催日時 令和元年12月15日(日)
PM 1:30~3:30
場 所 リビオシティーマンション 集会室
参加人員 35名 (マンション 8棟)



講演内容

- I 地震想定 都心南部直下地震(M7.3)が起こった場合
 - ・被害想定は被害範囲と人口から阪神淡路大震災の10~20倍になる
 - ・日中であれば交通機関の被害も加わる
 - ・震度6弱以上となる地域の人口は約2200万人 座間市も6弱となる
 - ・今後30年以内にM=7クラスの直下型地震が発生する確率は70%
- II マンションにおける一般的な地震被害
 1. 地震による建物の揺れ
 - ① 直下型地震の場合は 上層階の方が下層階より振幅が大きい
 - ② 長周期地震による揺れは、長く続く可能性がある
 2. けが人の発生は
家具の転倒と負傷率は、高層階ほど高かった(阪神淡路大震災)
家具の転倒防止対策で大幅に減らせる
 3. 電化製品が使えない、照明やエレベーターも止まる
 4. 断水する
給水管損傷がなくても、停電によるポンプ停止で、断水となる
 5. 室内閉じ込め者発生
近隣の住戸内が判りにくいので、閉じ込め者の捜索と早急な救助が必要
 6. °通信が不可となる
充電しても基地局が電池切れとなり、通信不可となる
可能性がある
 7. エレベーター閉じ込め発生
感震器がついていても、閉じ込められ者が発生する
救助方法を学ぶことが必要

Ⅲ マンションは戸建てと異なり、倒壊や火災や延焼の危険は少ないことから、出来るだけ在宅避難出来る体制を作る

1. 在宅生活をするため(怪我をしないこと)

- ・家具転倒防止対策をする
- ・窓・家具のガラスに飛散防止フィルム貼り付ける
- ・開き扉にストッパー取り付ける

2. 在宅避難を維持するための備蓄について

- ・主食は必要な量を常に残すようローリングストックを行う。
- ・副食は自宅にある食材や缶詰で、10日分のメニューを作れるようにする
- ・災害非常食を備蓄しておかなくても10日以上のお食事が出来るようになる。

① 熱源の確保

電気や都市ガス・プロパンガス等インフラが遮断されても調理できるようにするためカセットコンロとガスボンベを用意する。ガスボンベは7年程度利用可能

料理パック
材質 高密度ポリエチレン



② 食料について

料理パック(ポリ袋)を利用した湯煎による調理を習得この調理法は、子供や男性でも簡単にできるので、家族全員ができるよう広める。

スーパーデオス



③ 飲料水について

風呂の水を飲料に変えられる機器の購入も考慮する。
(高額なものではない 3,000円程度)

④ トイレについて

平時から排水系統の確認をしておき、災害時は固液分離を考え、固形排は防臭用ビニール袋を利用、排水は建物に大きな損傷がなければ自宅のトイレで捨てる事が可能。

防臭袋



マンションの排水系統を調べておく、排水管の確認方法の訓練をする。

3 平常時の防災委員会の役割

理事会や自治会の中に防災委員会を作り、継続的に活動をし、災害時に行動をするのでなく、災害時に困らないための活動を、平時にやっておく。

4 エレベーターに閉じ込められた場合の救出方法も、訓練しておくことが必要。

等の意見交換を行った。

LED センサーライト
停電時自動点灯

「その他」



震災で夜間停電や、感震ブレーカーの動作で真っ暗になるのを防ぐため停電時自動点灯のライトを用意しておくことが必要

文責 広野台自主防災会連絡協議会
副会長